

AI×社労士から起こる、社労士業界のAI革命 第 **2** 弾

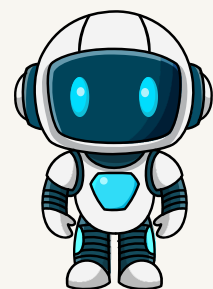
## AIにおける助成金情報収集システム

今回からはAI×社労士実習プログラムに参加していただいた、東京国際工科専門職大学の学生3名のそれぞれの成果とインタビューをお送りします。

まずは阜山さんが担当した助成金情報収集システムについてです！

### -SCHEDULE-

1. プログラム紹介&橋本さんインタビュー
- ★ 2. 阜山さん実習成果&インタビュー
3. 橘さん実習成果&インタビュー
4. 吉本さん実習成果&インタビュー



阜山 翔斗さん

大学2年生、IoTシステムコースに所属  
参加理由：社会でのコミュニケーション能力や実践的なスキルを身に付けたいから。

## 課題： 助成金情報収集やデータの出力はAIでできるのか？

### 背景

- 人の手で情報を集めることは時間がかかる。
- データの整合性などの確認作業が困難。

### 人とAIの違い

| フェーズ     | 従来(完全手作業)                       | 本アプリ(AIアシスト)              |
|----------|---------------------------------|---------------------------|
| 情報の収集    | 厚労省HPなどから最新PDFを探し、その都度ダウンロードする。 | アプリ上のリストから選択するだけで自動取得。    |
| 読み込み     | 数十ページのPDFを隅々まで読み、要件を抽出する。       | AIが全ての内容をスキャン。主要項目を自動抽出。  |
| ドキュメント作成 | 抽出した情報をWord等に手入力で行い、文書を整える。     | 解析終了と同時に整形済みWordが自動出力される。 |
| 所要時間     | PDF1件につき約45分～1時間                | PDF1件につき約1分～3分            |
| 担当者の負担   | 高い集中力が必要。見落としによる心理的プレッシャー。      | AIの回答を添削する作業になり、心理的障壁が激減。 |

URLや集めたい情報の要素を入力することで、支給額や条件、対象の事業主などが表となって出力されるアプリケーションを開発！

| アプリのメリット                                                                                                                                  | アプリのデメリット                                                                                                                                                      |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• 時間短縮＆効率化</li> <li>• 簡略化</li> <li>• プロンプト入力不要</li> <li>• URLの信用性有</li> <li>• Word出力が可能</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 生成に少し時間がかかる（10秒程度）</li> <li>• 一度PDFの確認が必要</li> <li>• ハルシネーション</li> <li>• セキュリティーやプライバシー</li> </ul>                    |
| デメリットに対する対策                                                                                                                               | 今後の改善点                                                                                                                                                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• セキュリティーやプライバシー<br/>→使用前にAIの学修設定をOFFにする</li> <li>• ハルシネーション<br/>→出力後自分で整合性を確認する</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>• ページ選別の自動化</li> <li>• Wordでのフォント設定</li> <li>• 解析可能なPDFの幅を広げる</li> <li>• Excelを出力先に追加する</li> <li>• 文字認識機能の追加</li> </ul> |

### 橋本さんからの評価

助成金情報の情報収集先を指定することで誤った情報や不必要な情報を排除するように考えられており「AIでなんでも自動で」ではなくあえて制限をかけて精度を上げるという発想があるところが良かったと思います。



## 皐山さんにインタビュー

### Q1. プログラムに参加する前と後でHALZの印象は変わりましたか？

参加前は、社労士は企業の労働に関する業務を行うというイメージがあり、AIをどのように活用しているのか具体的なイメージがありませんでした。

しかし実際に参加してみると、作業の効率化などの場面で積極的にAIを活用していく様子を見て、社労士に対するイメージが大きく変わりました。

### Q2. プログラムで直面した課題や学んだことはありますか？

特に難しかったことは、期待通りの結果が得られるまで検証を重ねることです。提示されたコードをAIを用いて検証していましたが、想定していた結果と異なることも多く、何度も試行錯誤を繰り返しました。大学では基本的なコードは学んでいましたが、プログラムではより応用的なコードを扱うことが多いのでとても勉強になりました。

### Q3. この経験を将来どのように活かしていきたいですか？

将来AIを活用する際には、その結果を過信しすぎない姿勢を大切にしたいと考えています。AIを使いながらも、自分自身で正しいかどうかを判断できる知識や技術を身に付け、効率的に業務を進められるようになりたいです。

### Q4. どんな人にこのプログラムをお勧めしますか？

理系的な視点が活かせるプログラムなので、理系の学生には特におすすめです。また文系の学生であってもITやAIに興味がある学生にとってはとても勉強になると思います。

### 編集後記

インタビューにご協力いただいた皐山さん、本当にありがとうございました。お話を通して印象的だったのは、「AIを使う力」と同時に「AIを疑う力」も大切にしている姿勢でした。思うように結果が出ない中で何度も検証を重ねた経験は、きっと今後どんな分野に進んでも生きてくるはずです。今回のプログラムは社労士業務の理解だけでなく、AIとの向き合い方まで学べる貴重な機会なのだと感じました。この記事が挑戦を考えている方の一歩につながれば嬉しいです。

担当：小池